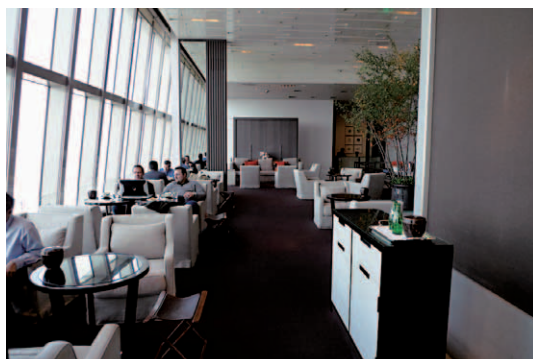


グランド ハイアット & パーク ハイアット 上海 Grand Hyatt & Park Hyatt Shanghai



上海環球金融中心「World Financial Center Shanghai」の奥に、ひっそりとパークハイアット上海のエントランスがある



1階でセキュリティーチェックを受けた後、いききに87階にあるロビーラウンジまで上がる



100階部分に設けられたスカイウォークからの圧倒的迫力の眺望。88階建ての金茂大廈「Jin Mao Tower」が遙か下に見える

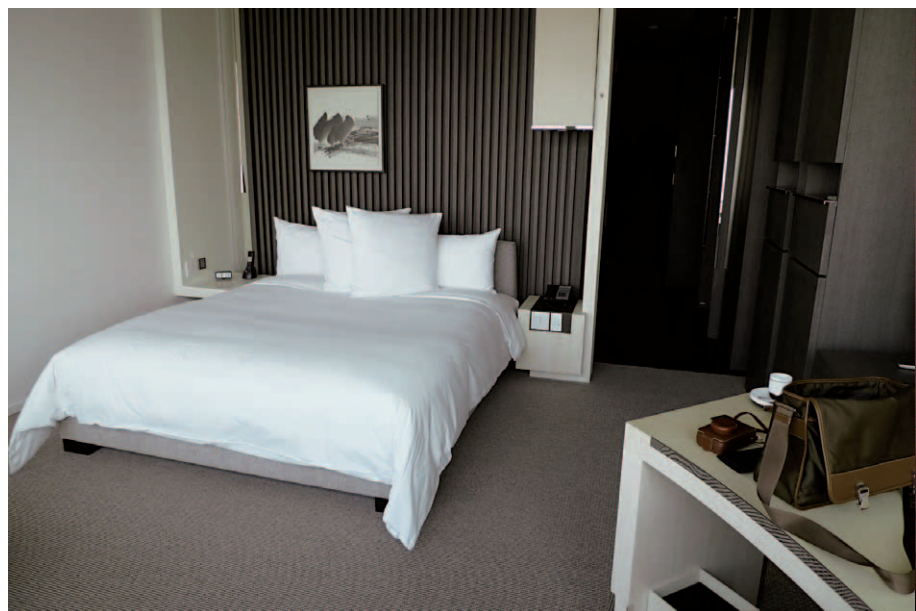


筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



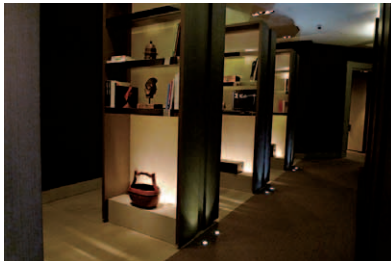
この部屋は「Bund View King」のカテゴリで約55-60㎡の広さがある。外灘バンド側正面に位置する客室で、上海・浦東の超高層ビル群を手取るように眺められる



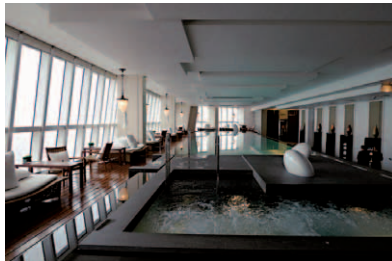
日本の“風呂”を基本に取り入れ、バスタブと洗い場を合体させシャワーブースを排除している。木製の風呂桶やアメニティの入った竹籠を用意している



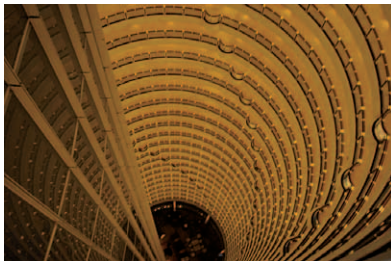
部屋からは金茂大廈や東方明珠タワーが至近距離に望める



回廊にあるライブラリー感覚の飾り棚。新宿のパークハイアットにあるライブラリーの棚にヒントを得た感覚だ



85階にある「Water's Edge Spa」内のインフィニティプール。デッキチェアから眺める景観はまさに天空のアオアシスだ



グランドハイアットの中心部は世界最大級の円筒形のアトリウムになっている



巨大なアトリウムに沿って客室に至る外廊下の回廊がぐるりと囲んでいる



洗い木目のベッドボードに金文字で書かれた漢詩が見事に調和するベッドルーム。部屋によって漢詩の種類は異なり、一番人気は寒山寺で有名な唐代の詩人、張継の「風橋夜泊」だそう



グランドハイアットの54階にあるレセプション前のロビーラウンジ



中央にオブジェが飾ってある優雅なバスルーム

上海、これほどダイナミックに変化・成長して行く都市の姿は世界に類を見ない。躍動する中国の原動力が上海・浦東地区であり、その最初の本格的超高層ビルが88階建ての金茂大廈「Jin Mao Tower」であった。グランドハイアット上海(以下GH上海)はこの金茂大廈の53-87階を占めて1999年にオープンした。開業当時は“世界で一番高層にあるホテル”のふれ込みで話題をさらったが、後にそのタイトルはお隣のパークハイアット上海に譲ることになる。

ホテル内部は世界最大級の円筒形のアトリウムになっていて、客室外廊下の回廊がぐるりと吹き抜け部分を囲み、その近未来的デザインに驚かされる。逆に客室内はオリエンタルな趣の感があり、特にベッドボードに書かれた重厚な金文字の漢詩は見どころの一つだ。客室ごとに杜甫や李白などそれぞれ異なった漢詩が刻まれていて、蘇州の職人の手によってボードに彫られたといわれる。GH上海は45のスイートを含む全555室のゲストルームを有し、54階にあるロビーフロアにレセプションデスクを設けてある。86階にある「Club Jin Mao」は開業当時に上海一の高級会員制クラブであったが、現在は洗練された上海クイジーヌとして一般客にも開放されている。

一方、パークハイアット上海(以下PH上海)は2008年、上海環球金融中心「World Financial Center Shanghai」の79-93階にオープンした。101階建ての上海環球金融中心は地上492mの高さを誇り、ご承知のように日本の森ビルが事業主体となって建設した上海一の超高層ビルだ。トップの部分にちょうど栓抜きのような形状をした空間があり、その先端部分100階にスカイウォークと呼ばれる展望遊歩道が設置されている。当初は円形の風通しの空間を設計していたが、“日の丸”に通じるということで抗議を受け四角状に変更したといわれる。スカイウォークからの眺めは圧巻で、88階建ての金茂大廈や東方明珠タワーを遙か下に臨むことになる。

PH上海は32のスイートを含む全174室のゲストルームの構成で、87階にロビーフロアを設けている。レセプションデスクのあるラウンジで摩天楼の眺望を楽しんだ後、エレベーターを乗り換えて客室に向かう。客室はシンプル＆モダンを基調にしているが、バスルームは日本の風呂を手本にした洗い場一体型で、木製の風呂桶や竹籠を用意した“和”の雰囲気だ。91-93階は「100 Century Avenue」と呼ばれるレストランフロアになっており、さまざまなスタイル、国籍の料理を堪能できる。85階にはスパ「Water's Edge Spa」があり、インフィニティプールで泳ぐ爽快感はまさに天空のアオアシスと言える。

上海の開発スピードはとどまることを知らない。既に上海中心大廈「Shanghai Tower」の建設が2008年より始まっていて、14年には地上632mの高さを誇る121階建ての超高層ビルが完成する。現在、“世界で一番高層にあるホテル”は香港のリッツ・カールトンに移っているが、再びそのタイトルは上海に戻って来そうだ。